

周辺環境に配慮したデザイン蓋

(株) 奥村組 ○正会員 大槻 弥生

1. はじめに

近年、マンホール蓋のデザインが多様化してきている。

それと共に、周辺景観を考慮した蓋も一昔前とは違った物が増えてきた。

20 年程前に遡ると、周辺景観に配慮した蓋と言えば化粧タイルを表面に施した蓋が殆どだったが、最近ではそれ以外にも、デザインはそのままで色のイメージを統一した物なども見られる。

デザイン性の強い物でも、スポーツ施設の周りにその施設のマスコットキャラクタをデザインした蓋を配置する例や、観光地周辺にその場所がイメージできる蓋を敷設するなど、雰囲気作りに一役買っている物も多く見られる。このようなタイプの蓋も周辺景観に配慮していると考えられるため、今回は大きく分けて二つのタイプの周辺景観に配慮した蓋を比較しつつデザイン蓋の可能性を考察してみたい。

2. 周辺景観に溶け込む蓋

先にも述べた通り、昔からある周辺景観に配慮した蓋と言えば化粧タイルを施したものが筆頭になる。

今でも、商店街や駅前など化粧タイルを施した歩道にはよくみられるタイプの蓋になる。

しかし、長年の点検整備を経た蓋は、はめ込む向きが考慮されずに戻される事が多く(写真-1)、歩道のタイルと蓋タイルがずれてしまっている例が数多く見られる。

これではせっかく景観に考慮して設計しても、良さが生かされず効果が半減していると言わざるを得ない。

また、歩道を直す際にタイルのみを敷き直した結果、蓋だけが取り残されてしまう例も見受けられる。(写真-4)



写真-1 現在の状況



写真-2 本来の敷設



写真-3 効果を発揮した敷設



写真-4 周りとは違う蓋

その対応策になるのではないかとと思われるのが、セラミック溶射技術を用い周りの路面に合わせ単色にコーティングを施した蓋の登場ではないかと考える。(写真-5, 6, 7)

単色だけではなく、外周を周りのタイル合わせている蓋もあるが、この色遣いも周りに溶けこむよう配慮されているのではないかと考える。



写真-5 セラミック加工



写真-6 セラミック加工

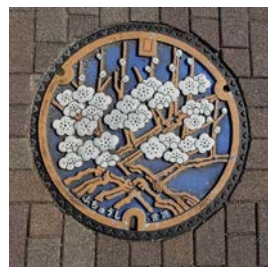


写真-7 セラミック 3色



写真-8 1色塗

他にも、セラミックではないが、凹んだ部分に歩道と同系色の樹脂を流し込み調和を図っている蓋も周辺に配慮している蓋と言える。(写真-8)

キーワード マンホール, マンホール蓋, 都市景観

連絡先 〒108-8381 東京都港区芝 5-6-1 (株) 奥村組 東日本支社 土木技術部 TEL 03-5427-2322

3. 雰囲気作りに一役買っている蓋

一方で、都市空間の構成・意匠についての工夫や配慮を考え作られた都市空間に着目した場合、調和だけでなく個性づくりを大事にするケースが多く見られる。

例えば、一見すると主張の激しいイメージのあるデザイン蓋も敷設する場所を考慮することで街の雰囲気作りに大きく貢献する効果がある。

一例ををあげると、広島市では良好な都市景観の形成を目的とし、広島城・マツダスタジアム周辺など、地区ごとにテーマをもったデザインマンホール蓋を設置している。(写真-9, 10)

この広島市の取り組みからも考察できるように、デザイン蓋はアピール性の強さを持ちつつも都市景観を形成するうえで重要なツールになりつつあると考えられる。

大和ミュージアムのある呉市では、戦艦大和の蓋を新設し、防衛・軍事関連施設を観光資源とし盛り上げようと取り組んでいる。(写真-11)



写真-9 広島市
マツダスタジアム周辺



写真-10 広島市
JR 広島駅周辺



写真-11 呉市
旧呉海軍墓地付近



写真-12 国分寺市
早稲田実業学校付近

もう一つ例を挙げると、仙台市では「仙台駅東口～Kobo パーク宮城」「地下鉄南北線泉中央駅～ユアテックスタジアム仙台」その間にある歩道にチームをイメージした蓋を敷設している。(写真-13)

この蓋には、目的地への距離も明記されており案内板としての役割も果たしている。

こういった使い方も、スポーツ観戦へ向かう人々の気持ちを盛り上げる効果が期待されると考えられ、都市景観に一役買っていると言えよう。



写真-13 仙台市
Kobo パーク宮城付近



写真-14 仙台市
期間限定で敷設



写真-15 大田原市
与一くん



写真-16 静岡市
ジュビロくん

少し変わった使い方として、イベントの一環として、期間限定で蓋を敷設した例もある。(写真-14)

従来のデザイン蓋は鋳型を必要とするため、少量枚数を作成する事は困難であったが、プリントシールを貼った物・プリントされた樹脂パネルをはめ込んだ物など少量枚数作成技術の進歩により、このような使用が可能になった。

更に、近年では消火栓の蓋にも大きな変化がみられる。

特に増えてきたと思われるのはアピールキャラクタをデザインした物で、消火栓に限っては視認性も重要な為、このような地域に馴染みのあるキャラクタ起用は地域住民の方に認知してもらえる手段としてもよい方法だと言える。

(写真-15, 16)

このように、多種多様なデザイン蓋は利用の仕方次第で、伝統的な町並みや景色・個性的な景観・快適な生活空間など様々な都市景観を作るのに役立つ重要なツールだと考える。